

学ぼう!ふるさと草加

✂ ふるさと草加学習指導資料 ✂



草加市教育委員会

令和4年12月



はじめに

これからの教育においては、一人一人の子どもたちが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の造り手となれるようにしていくことが求められています。

草加市教育委員会では、笑顔かがやく草加の教育を目指し、令和2年度に「生きる力を共に教え育てる草加の教育」を基本理念とした第三次草加市教育振興基本計画を策定しました。この計画では、生きる力が育まれた子どもの姿を、目指す「草加っ子」として掲げ、園・学校・家庭・地域の連携による幼保小中を一貫した教育を通して、その実現に向けて取り組んでいます。併せて、子どもたちがふるさとのよさを知り、愛着と誇りをもつことが、地域の未来を担う子どもたちの成長を支え、郷土を創る次世代の人材育成や持続可能な地域社会の形成につながると捉え、「ふるさと草加学習」を推進しています。

これまで市内各小中学校では、子どもや地域の実態に合わせて創意工夫をしながら、「ふるさと草加学習」が進められています。一方で、「もっと地域との連携を深めた学習にしたい」「他にもどのような効果的な学習があるのか知りたい」といった声も多く聞かれるようになりました。

そこで今回、「ふるさと草加学習」を一層充実させるため、『学ぼう！ふるさと草加～ふるさと草加学習指導資料～』を改定しました。中学校卒業までに全ての草加っ子が、共通した学習経験ができるよう、新たに4つの学習テーマを設定するとともに、各中学校区が実態に合わせて、地域との連携を深めながら「ふるさと草加学習」に取り組めるよう、具体的な単元指導計画例を充実させ、より実践的な資料へと改めました。さらに、「ふるさと草加学習」の実施に関する様々な人的・物的資源を掲載し、初めて草加市に着任した教職員を始め、全ての教職員が幅広く活用できるよう作成しています。

本資料が、「ふるさと草加学習」の授業改善の一助となり、子どもたちの草加への愛着と誇りが一層育まれますことを、心から願っております。

結びに、これまでご指導いただきましたベネッセ教育総合研究所主席研究員 木村治生様、星槎大学客員研究員 田口浩明様を始め、貴重な情報提供及びご意見をいただきました草加市子ども教育連携推進委員会専門部会の委員の皆様に、厚くお礼申し上げます。

令和4年12月

草加市教育委員会

教育長 山 本 好一郎

目次

1 草加の教育について	3
(1) 社会的背景.....	3
(2) 幼保小中を一貫した草加の教育の概要	4
(3) 15年間を通じて系統的にふるさと草加を学ぶイメージ	5
2 ふるさと草加学習について	6
(1) ふるさと草加学習の目的	6
(2) 総合的な学習の時間における学習テーマ	7
(3) 学習テーマと単元指導計画例の扱いについて	7
(4) ふるさと草加学習の概要.....	8
(5) 年間指導計画におけるふるさと草加学習の位置づけ	10
(6) 「学ぼう！ふるさと草加」の活用方法	12
(7) 「草加だいすき！パリポリドリル」の活用方法	12
3 ふるさと草加学習のカリキュラム編成について	13
(1) ふるさと草加のカリキュラム編成の概要	13
(2) 中学校区におけるカリキュラム作成の流れ	14
(3) 幼児期から中学校まで系統的な学習テーマの例	16
(4) 総合的な学習の時間における全体計画の例	17
① 小学校の「総合的な学習の時間」全体計画例	
② 中学校の「総合的な学習の時間」全体計画例	
4 ふるさと草加学習実践事例・単元指導計画例	19
(1) 小学校 生活科実践事例	19
(2) 小学校 総合的な学習の時間単元指導計画例	20
(3) 中学校 総合的な学習の時間単元指導計画例	38
5 草加市の教育資源	55
(1) 草加の三大地場産業	55
(2) 授業で活用できる市内の教育資源	57
(3) 草加市に関するデータ集	67
6 委員名簿・審議経緯	68

1 草加の教育について

(1) 社会的背景

現在、急速な情報化や人工知能の進化、少子高齢化に伴う人口構造の変化など、社会環境が大きく変化しています。現在の子どもたちが成人する頃には、予測困難な時代を迎えることが予想されます。国は、予測困難な未来社会を切り拓くための「生きる力」を子どもたちに育成することを目標としています。

草加市では、国が示す「生きる力」を踏まえて目指す子どもたちの姿を具体化した、「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる」草加っ子15歳の姿を実現するため、幼保小中を一貫した教育を実施しています。

目指す「草加っ子」とは

園・学校・家庭・地域がそれぞれの教育・保育の充実、連携、協働を図りながら育む「資質・能力」を身に付けた中学校卒業時の子どもの姿のこと

子どもを取り巻く社会

- 急速な情報化や技術革新
- グローバル化の進展
- 直接的な体験機会の減少
- 地域との関わりの希薄化
- 少子高齢化
- 家庭環境の多様化

急激な社会の変化により予測困難な時代が到来

国の動き

- 主体的で対話的で深い学びの実現(育成を目指す資質・能力を3つの柱で整理)
- 社会に開かれた教育課程の実現(子どもに求められる資質能力を社会と共有)
- カリキュラム・マネジメントの実現(地域資源・地域人材の活用)

急激な社会の変化に適応し、予測困難な未来社会を切り拓く「生きる力」を育成

草加市の教育

**「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる」草加っ子を育む
幼保小中を一貫した教育を通して「生きる力」を育成**

(2) 幼保小中を一貫した草加の教育の概要

草加市では、自己肯定感と自己有用感の育ちが、「生きる力」の育ちを支える土台であると捉え、幼保小中を一貫した教育を実施しています。

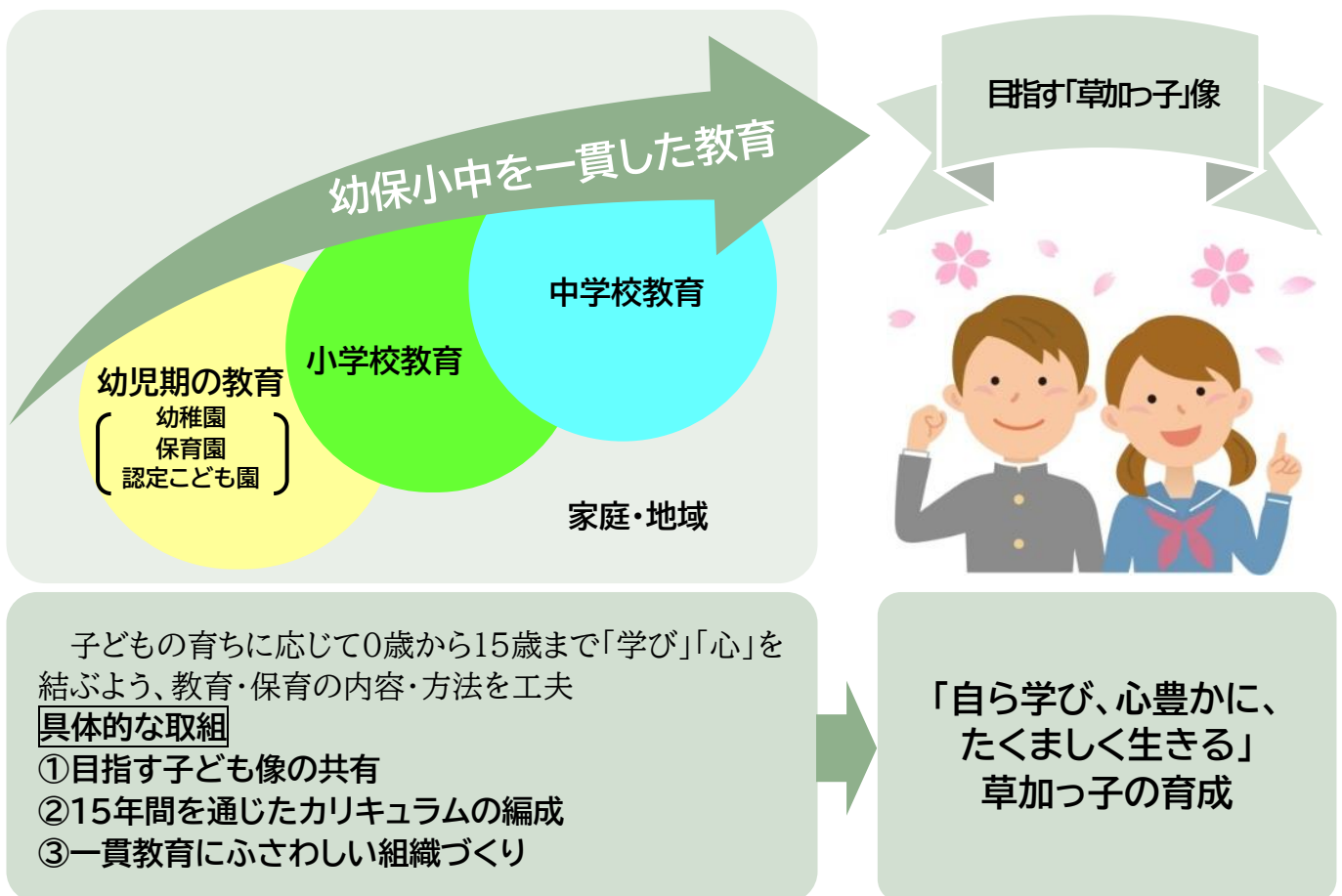
幼保小中を一貫した教育では、園・学校・家庭・地域が一体となり、育成する資質・能力を共有しながら目指す「草加っ子」の実現を図ります。

自己肯定感・自己有用感とは

自己肯定感・・・「自分は大切な存在だ」と思うことができ、自分に自信を持つことができる心のこと
自己有用感・・・他人の役に立った、他人に喜んでもらえたなど、社会性の基礎になる心のこと

幼保小中を一貫した教育とは

目指す「草加っ子」の実現に向け、「自己肯定感」と「自己有用感」を、家庭・地域や園・学校が一貫して大切に育み、子どもたち一人ひとりに確実に「生きる力」を身に付けさせ、社会を生き抜く力の根幹をつくりあげる教育のこと

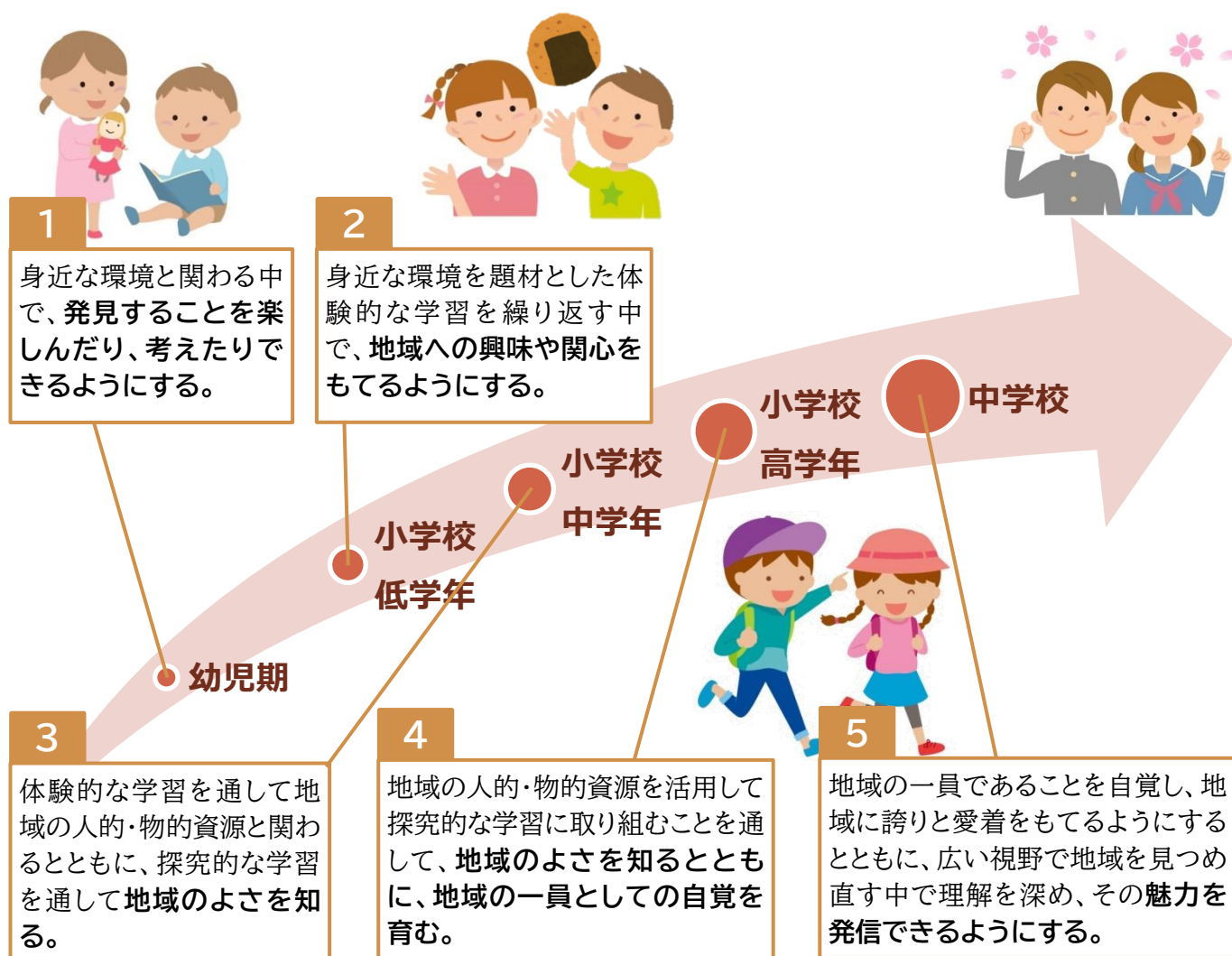


ふるさと草加学習の必要性

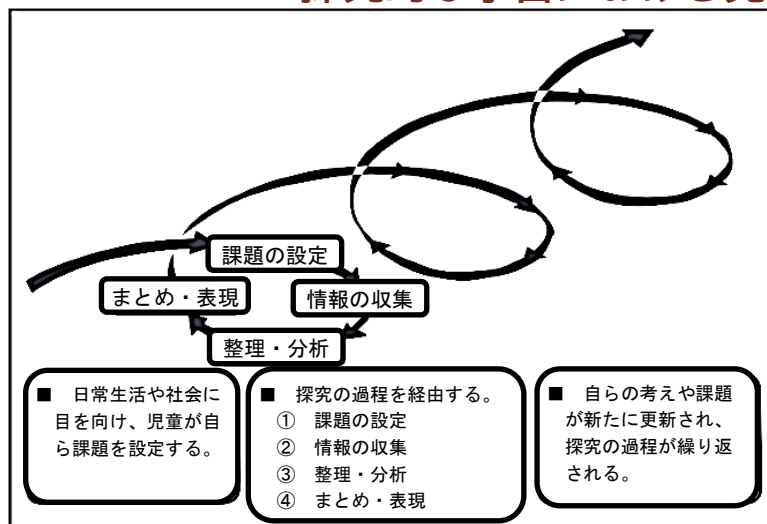
- 子どもの草加への愛着や誇りを育成する必要性
- 自己肯定感・自己有用感を高め、子どもの生きる力を育成する必要性
- 社会に開かれた教育課程を実現するため、地域との連携・協働を進める必要性

p.6で詳しく説明します。

(3) 15年間を通じて系統的にふるさと草加を学ぶイメージ



探究的な学習における児童生徒の学習の姿



学びのスパイラル 繰り返しながら高めていく

課題の設定	やってみたい もっと知りたい
情報の収集	どんな方法があるかな どうやって調べよう
整理・分析	どうやってつたえよう どうやってまとめよう
まとめ・表現	こんなことができた こんなことがわかった

※参考:学習指導要領解説 総合的な学習の時間編



2 ふるさと草加学習について

(1) ふるさと草加学習の目的

①子どもの草加への愛着や誇りを育成する。

全ての草加の子どもたちが、小中学校で一貫してふるさと草加について学ぶことで、地域のよさを知ることができるになるとともに、地域への愛着や誇りの育成を目指します。このことを通して、将来の地域社会に貢献できる人材の育成につなげます。

②自己肯定感・自己有用感を高め、子どもの生きる力を育成する。

ふるさと草加学習の実践を通して、地域との連携・協働を充実させることは、地域の願いの実現や、子どもの自己肯定感・自己有用感の育成に深く関わります。地域学習に取り組んだ子どもたち、教諭、地域の方からは、次のような声を聴くことが期待できます。

出典：「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」, 文部科学省

一番うれしかったことは、人から期待されることです。一中略—
総合的な学習の時間で取り組んでいる活動は、私にとってなくてはならない存在になりました。なぜなら、信じることの大切さ、みんなで協力することのすばらしさ、人が喜ぶ姿を見るうれしさなど、たくさんのことを学んだからです。地域の人に期待されていることを感じるからです。(小学校児童)

感動で涙が込み上げてきました。大人たちがあきらめ見落としていた地域のよさを、子供たちが一生懸命考え調査しまとめて発表してくれました。まだまだこの地域も捨てたものではないと気付かされました。一中略—
自分も地域のためにできることを頑張ろうと思いました。(小学生と交流した地域の方)

自分はもともと積極的に行動する性格ではなかったけど、総合的な学習の時間を通して、少しずつ積極的に行動できるようになったと思います。学校近隣の空き家問題について取り組んだことをきっかけにして、自分の住んでいる地域の問題に目が向くようになり、その問題に対してどのような取組がされているのか、自分にできることはないかなど、日頃から関心をもって過ごすようになりました。(中学校生徒)

生徒たちが『わたしたちにできることはないですか?』と訪ねて来てくれたときはびっくりしました。最初はこちらもみんな生徒たちに遠慮していましたが、『この子たちは本気で言ってくれているんだ』と分かって本当にうれしかったです。道の駅の特産品コーナーは生徒さんの手作りなんです。これはもう、地域の自慢です。(中学生と交流した地域の方)

教師が探究課題に対する十分な専門知識をもっていなかったために、生徒は教師を頼ることができませんでした。だからこそ、生徒は地域の方々に話を聞きに行ったり、インターネットを活用して遠く離れた地域にいる専門家から情報を得たりするなど積極的に活動に取り組むことができました。教師の役割は教えることだけではないのだと気付かされました。(中学校教諭)

総合的な学習の時間をきっかけに今までの教育観や生徒観が大きく変わったと思います。他の教科等の学習も含めて探究学習にいきいきと取り組む生徒を見て、学びとは何かを考えるようになりました。また、地域の課題やグローバルの課題に果敢に取り組む生徒に大きな可能性を感じています。(中学校教諭)

また、地域について知る体験活動、地域の人々とともに探究課題を解決する活動を充実させることで、次のような資質・能力を育成し、生きる力を育むことが期待できます。

- 草加に関して、自分が感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。
- 課題の解決に必要な情報を、適切な手段を選択して収集・蓄積できる。
- 収集した情報を取捨選択したり、比較したり、関連付けたりしながら課題解決に向けて考えることができる。
- 草加に関する内容を、相手や目的に応じて、適切に表現することができる。
- 調べた情報や人々との関わりの中から、草加のよさを伝えようとする。
- 草加を大切に思い、学んだことを学校生活や家庭生活に生かそうとする。
- 草加と自分との関わりに気づき、地域の一員であることを自覚し、将来の自分の行動を考えようとする。

③社会に開かれた教育課程を実現するため、地域との連携・協働を進める。

ふるさと草加学習を実施することで、子どもたちに求められる資質・能力とは何かを地域と学校が共有することができ、社会に開かれた教育課程の実現につながります。

社会に開かれた教育課程とは



「社会に開かれた教育課程」とは、よりよい学校教育を通してよりよい社会を作るという理念のもと、子どもたちにどのような資質・能力を育むのかについて学校と社会が共有するとともに、連携・協働することによってその実現を図ることです。

社会とのつながりの中で学ぶことで子どもたちは、自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感をもつことができます。この実感が、変化の激しい社会において子どもたちが困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力になります。

(2) 総合的な学習の時間における学習テーマ

市内の全児童生徒が、草加について共通した学習活動を経験し、地域に誇りと愛着をもてるようにするために、生活科における「草加に親しむ」活動の経験を土台とし、総合的な学習の時間では、①～④のテーマで「ふるさと草加学習」を進めます。

①草加に親しむ

①草加の特産品

②草加松原と綾瀬川

③草加の歴史と文化

④草加のまちづくり

生活科実践事例

p.19

総合的な学習の時間 単元指導計画例

小学校 p.20～p.37

中学校 p.38～p.54

(3) 学習テーマと単元指導計画例の扱いについて

- 4つの学習テーマ「草加の特産品」「草加松原と綾瀬川」「草加の歴史と文化」「草加のまちづくり」の全てを小学校3年生から中学校3年生までに扱います。
- 他教科とも関連させながら、総合的な学習の時間で各学年年間10時間程度実施します。
- 本資料の単元指導計画例は参考例です。4つの学習テーマに沿っていれば、例と異なる単元名・題材で単元指導計画を立てることが可能です。

本資料を参考に、児童生徒の思いや願い、地域の課題、学校の実態に合わせて、探究的な学習となるよう年間指導計画や単元計画を作成します。



(4) ふるさと草加学習の概要

	学習テーマの目的	幼保で扱う活動例	小学校低学年で扱う活動例
①草加の特産品	・草加市の特産品について調べたり、体験したりする活動を通して、草加市の伝統産業について理解する。 ・草加市の特産品について調べたり、体験したりする活動を通して、これまで継承されてきた草加の伝統産業のよさを再認識し、地域に対して自分ができることを考える。	・栽培、収穫 ・採集、飼育体験 ・絵本、紙芝居、ペープサート ・特産品にふれる活動	・草加お宝かるた ・特産品(植物、野菜)の栽培
②草加松原と綾瀬川	・国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」と綾瀬川等の河川について調べる活動を通して、草加市には多くの人々に愛される貴重な名所があることや身近な自然環境について理解する。 ・草加市にゆかりのある松尾芭蕉について調べる活動を通して、草加市のよさに気づき、継承を願い、地域に対して自分にできることを考える。	・園外散歩 ・砂場遊び ・自然の中での虫や生き物とのふれあい ・自然の中での草花とのふれあい ・絵本、紙芝居、ペープサート	・校庭探検 ・公園探検 ・四季探し ・虫探し ・草加お宝かるた
③草加の歴史と文化	・自分が住む草加市の歴史や昔の様子を調べたり、体験したりする活動を通して、発展してきた草加の文化や歴史についての理解を深める。 ・草加市にゆかりのある人物やまちを調べる活動を通して、草加市のよさを再認識し、草加市に愛着をもち、草加市のよさを大切にしながら生活する。	・公共施設の利用 ・友達や地域住民とのふれあい ・絵本、紙芝居、ペープサート ・史跡や寺院などの訪問 ・伝統的な行事にふれる活動	・草加お宝かるた ・通学路探検 ・まち探検 ・昔遊び
④草加のまちづくり	・草加市の安心・安全なまちづくりについて調べる活動を通して、自分が住む草加市を守る人々の工夫や努力について理解し、地域の一員としての自覚を高める。 ・住みよいまちづくりのための人々の工夫や努力について調べる活動を通して、将来の草加市を創造し、自分にできることを考える。	・公共施設の利用 ・友達や地域住民とのふれあい ・お店や働く人とのふれあい ・絵本、紙芝居、ペープサート ・清掃活動や当番などの奉仕活動	・図書館見学 ・まち探検 ・通学路探検 ・草加お宝かるた

小学校 単元計画例	中学校 単元計画例	その他の活動例
地域の多様な特産品から課題を設定する学習 調べよう！草加の特産品 p.20	一つのテーマについて深く探究する学習 草加の伝統 ゆかた染め p.38	・枝豆の栽培 ・大豆の栽培 ・収穫体験 ・工場見学 ・せんべい焼き体験 ・皮革体験 ・小松菜農園訪問 ・地球儀製作所見学 ・特産品を使った調理
地域の伝統産業の魅力について情報発信をする学習 発信しよう！草加の魅力 p.23	地域の発展について探究する学習 私たちの力で！草加の発展 p.40	
現地での体験活動を重視する学習 行ってみよう！草加松原と綾瀬川 p.26	地域への愛着と誇りを高める学習 歴史の舞台としての草加松原 p.42	・歴史民俗博物館見学 ・甚左衛門堰見学 ・文化財見学 ・川のはたらき調べ
地域の環境を視点にする学習 おくのほそ道の風景地 草加松原 p.28	地域文化の継承を視点にする学習 魅力ある〇〇川のある△△中学校区を創ろう p.44	
地域の行事を体験する学習 草加の祭りを体験しよう p.30	地域の歴史や文化について探究し、魅力を味わう学習 草加にゆかりのあるまちや人々 p.46	・地域行事への参加 ・歴史民俗博物館見学 ・寺院めぐり ・草加ふささら音頭体験 ・草加パンフレット作り ・文化財見学 ・草加CM作り ・他地域との比較
地域の歴史や文化を中心に探究する学習 草加！彩発見 p.32	地域の一員としての自覚を高める学習 わがまち草加PR大作戦！ p.48	
地域の防災・防犯について探究する学習 安心・安全なまちづくり p.34	地域の防災について自覚を高める学習 もしもに備えて p.51	・消防署見学 ・防災体験 ・福祉体験 ・福祉施設訪問 ・ゴミ、残菜調べ ・草加パンフレット作り ・草加市まちづくり条例 ・通学路のよさや改善点 ・草加CM作り
地域への愛着心を視点にする学習 気持ちよく生活できるまち p.36	社会参画や地域貢献を視点にする学習 創造しよう！未来の草加 p.53	

※単元名等は参考例です。児童生徒の思いや地域の課題に沿って計画します。

※太字の単元指導計画例は、それぞれ示したページに掲載しています。

(5) 年間指導計画におけるふるさと草加学習の位置づけ

- 草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラムには、右のとおり、ふるさと草加学習が位置付けられています。
- 各学校は、総合的な学習の時間の目標や内容を適切に定めて、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開することが必要です。
- 本資料の単元指導計画例は、参考例です。**児童生徒の思いや地域の課題に沿って、単元の時数や内容を検討し、各中学校区・各校の創意工夫を生かしてください。**

小学校			
1年	2年	3年	4年
		各学校において定めた内容 各学年40～60時間程度 ふるさと草加学習 各学年10時間程度 ● 草加の子どもたちが小中学校で一貫してふるさと草加について学び、地域に誇りと愛着をもてるようになるとともに、地域をよく知り、理解できるようになってほしいという願いのもと、取り組むものです。	
身近な環境を題材とした体験的な学習を繰り返す中で、地域への興味や関心をもてるようにする。		体験的な学習を通して地域の人的・物的資源と関わるとともに、探究的な学習を通して地域への理解を深める。	
生活(1年) むかしからつたわる あそびをたのしもう ・地域の人といっしょに草加お宝かるたで遊ぶ中で、昔から伝わる遊びのよさや楽しさ、地域の人の優しさ、身近な名所等に気付くことができるようにする。		生活(2年) もっとなかよし まちたんけん ・地域の人々と関わる活動を通して、地域と自分たちの生活との関わりを考えたり、生活と地域との関りなどに気付いたりして、生活上必要な習慣や技能を身に付けたり、地域の人々に親しみや愛着をもったりできるようにする。	
		【草加の特産品】 実践例：調べよう！草加の特産品 地域の伝統産業について調べる活動を通して、自分が住む地域で生まれ継承されてきた伝統産業のよさに気付き、調べた内容や考えたことを分かりやすく	
		【草加松原と綾瀬川】 実践例：行ってみよう！草加松原と綾瀬川 国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」や綾瀬川等の河川等について調べる活動を通して、草加	
		【草加の文化と歴史】 実践例：草加の祭りを体験しよう 草加ふささら祭りや地域の祭りについて探究する活動を通して、地域のよさへの理解を深めるとともに、	
		【草加のまちづくり】 実践例：草加の防災 草加の安心・安全なまちづくりについて調べる活動を通して、自分が住む地域を守る人々の工夫や努力に	
		国語(小1) ききたいな、ともだちのはなし 国語(小3) 仕事のくふう、見つけたよ すがたを変える大豆 食べ物のひみつを教えます 国語(小4) 新聞を作ろう 社会(小3) 行ってみよう田畑・工場・店 社会(小4) 調べようつくちようのあるまち 社会(小5) わたしたちの生活と食糧生産 理科(小3) 植物を育てよう	

		中学校		
5年	6年	1年	2年	3年
各学校において定めた内容 各学年40～60時間程度 ふるさと草加学習 各学年10時間程度 ●社会科に加え、生活科及び総合的な学習の時間を中心に、カリキュラム・マネジメントを確立し、地域の人的・物的資源を活用しながら、社会と連携して「ふるさと草加学習」を一層充実させる中で、子どもたちの草加への思いを育んでいくためのものです。 ●ここで示すのは、 <u>実践の一例であり、各学校においては、児童生徒の実態や地域の特色に応じて内容を工夫して実施</u> してください。 ●草加に関することを題材に、児童生徒が探究活動を行えるよう配慮したり、教科等横断的な学習活動になるよう工夫したりしてください。				
地域の人的・物的資源を活用して探究的な学習に取り組むことを通して、 地域への理解を深めるとともに、地域の一員としての自覚を育む。		地域の一員であることを自覚し、地域に誇りと愛着をもてるようにするとともに、広い視野で地域を見つめ直す中で理解を深め、その 魅力を発信できるようにする。		
表現し、学んだことを学校生活や家庭生活で生かそうとすることができるようにする。		【草加の特産品】実践例：私たちの力で！草加の発展 地域の伝統産業について調べる活動を通して、自分が住む地域で生まれ継承されてきた伝統産業のよさを再認識し、調べた内容や考えたことを相手に伝えるよう工夫して表現し、地域に対して自分ができることについて考えることができる。		
市には多くの人々に愛される貴重な名所があることに気づき、それらのよさについて考え、地域との関わりの中で学んだことを伝えようとするようにする。		【草加松原と綾瀬川】実践例：歴史の舞台としての草加松原 国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」や松尾芭蕉について調べる活動を通して、草加市の歴史やまちの様子、文化のよさに気づき、そのよさの継承を願い、自分にできることを考えることができるようにする。		
地域の一員としての自覚をもてるようにする。		【草加の文化と歴史】実践例：草加にゆかりのあるまちや人々 草加市にゆかりのあるまちや人物について探究する活動を通して、草加市にゆかりのあるまちや人物についての理解を深め、草加市のよさを大切にしながら生活していくことができるようにする。		
ついて理解し、学んだことを学校生活や家庭生活で生かそうとすることができるようにする。		【草加のまちづくり】実践例：創造しよう！未来の草加 これまで学習してきた「ふるさと草加学習」を生かして、保護者や地域の方々に草加市の魅力を伝える活動を通して、将来の草加市を創造し、よりよい市にしていこうために必要なことについて、自分ができることを考えたりまちづくりの提案を考えたりできるようにする。		
社会(小3) わたしたちのまちってどんなまち 社会(小4) 草加市に残る昔の人の知え 社会(小5) 環境を守るわたしたち 理科(小6) 流れる水のはたらき 社会(中3) 私たちの暮らしと経済		国語(小3・小4) 短歌・俳句に親しもう 国語(小5) 古典の世界(一) 国語(中3) 夏草－「おくのほそ道」から 社会(小4) 草加市に残る昔の人の知え	社会(小5) 世界の中の国土 社会(小6) 世界の中の日本 社会(中1) 世界の諸地域 社会(中2) 地球社会と私たち	国語(小6) ようこそ、私たちの町へ 国語(中3) 修学旅行記を編集する 社会(中1～中3) 日本や地域の特色や歴史について学ぶ 英語(中1～中3) スピーチや英作文を学ぶ おくのほそ道の英訳 冒頭文の暗唱

(6) 「学ぼう!ふるさと草加」の活用方法

本資料には、生活科の実践事例と、総合的な学習の時間の学習テーマ・小中学校別に2種類の単元指導計画例を掲載しています。

各校では、p. 6で示したふるさと草加学習の目的を達成するために、次の5つの活用方法を参考に本資料をご活用ください。

活用方法1 総合的な学習の時間全体計画の工夫

本資料には、ふるさと草加学習を位置付けた総合的な学習の時間の全体計画の例を掲載しています。この例を参考に、中学校区での協議や各校の実態を踏まえて、工夫して全体計画を作成してください。

活用方法2 年間指導計画の工夫

本資料を活用することで、生活科の年間指導計画に草加に親しむ学習活動を取り入れたり、総合的な学習の時間の年間指導計画に、4つの学習テーマに沿ったふるさと草加学習を取り入れたりできます。

本資料の単元指導計画例には、他教科等との関連も示しているので、各教科等の年間指導計画でも、ふるさと草加学習との関連を位置付けることができます。「草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラム」も併せて活用してください。

活用方法3 探究的な学習の実践

本資料の単元指導計画例は、探究的な学習、主体的・協働的な学習になるよう工夫しています。実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できるよう、各学校の実態に合わせて探究的な学習を計画してください。

活用方法4 学校段階に応じた系統的なカリキュラムの編成

本資料の単元指導計画例は、小中学校別に作成しています。各校で実施しているふるさと草加学習を生かしながら、学校段階に応じてどの時期にどの学習テーマを実施するか計画してください。

また、中学校区の小中学校で連携・協議して、組織的・系統的なふるさと草加学習のカリキュラムとなるよう、本資料を活用してください。

活用方法5 地域との交流・連携の充実

本資料の単元指導計画例は、地域の施設や人材を積極的に活用するよう工夫しています。子どもが地域と直接交流しながら学び、草加のよさを実感できるような単元指導計画の作成に活用できます。

各単元指導計画例で取り上げている地域の教育資源は、活用の一例です。市内でも地域によって実態が違います。地域の実態に応じて、名産品・河川・祭り等の題材を変更したり、他の教育活動や教科等と関連を図ったりしながら適切に実施してください。

活用方法6 草加市に関する基本的な知識の習得

本資料には、草加市の基本データ、ふるさと草加学習に活用できる人的資源・物的資源等の情報を数多く掲載しています。草加市に関する基本的な知識をまとめているので、ふるさと草加学習だけでなく、他の教育活動の教材研究を行う際にも活用できます。新たに草加市に着任した教職員をはじめ、全ての教職員にご活用いただきたい資料です。

(7) 「草加大好き!パリポリドリル」の活用方法

子どもたちの主体的な学びを促進するため、児童生徒用に「草加大好き!パリポリドリル〜めざせ パリポリマスター〜」を配布しています。本資料と併せてご活用ください。
※ パリポリドリルは、令和3年度から社会科副読本「わたしたちの草加」巻末に添付しています。

※ 校務用PCで電子データも配布しています。p. 70をご覧ください。



3 ふるさと草加学習のカリキュラム編成について

(1) ふるさと草加学習のカリキュラム編成の概要

15年間を通じて草加について系統的に学ぶことで、子どもたちのふるさと草加への理解は深まっていきます。その際、子どもたちが、教職員や保護者・地域の方と繰り返し関わり、交流を深めていくことで、子どもたちに「ふるさと草加」に対する誇りや愛着が育まれていきます。そのため、各中学校区では、子どもたちの学びや成長を見通して、**実態に合ったカリキュラムを編成**することが大切です。

ふるさと草加学習を充実させるためには、各学校や地域の実態、これまでの指導実績等を踏まえて、学習内容や単元指導計画等を見直すことが大切です。カリキュラムを編成する際は、次の点に留意してください。

- 子どもたちの思いや願い、これまでの経験を生かす。
- 子どもたちの発達段階に応じた内容にする。
- 各校の実態に応じた内容にする。
- 地域の人的、物的及び地理的環境を活用する。
- 各教科等の学習内容や既習事項とのつながりを生かす。

【カリキュラムを編成する際の手掛かり】

カリキュラムを編成する際に手掛かりとなる、「子どもの経験・思考」と、「教師の視点」を次のとおりまとめました。併せて参考にしてください。

子どもの経験・思考

【経験】

- ・〇〇を見たことあるよ
- ・〇〇さんに聞いたよ。優しく教えてくれたよ
- ・公園に行ってきたけど、春と秋で様子が違っていたね
- ・草加市の祭りに参加したよ。たくさんの人と出店でにぎわっていたよ

【思いや願い】

- ・〇〇っておもしろいな。実際にやってみたい
- ・〇〇をするためにはどのような人が関わっているのだろう
- ・〇〇になったらすてきだな。自分に何ができるかな
- ・小学校では〇〇を調べたよ。中学校でもっと詳しく調べてみたい



教師の視点

【子どもの実態】

- ・学年の子どもたちも、だんだん〇〇ができるようになってきたな
- ・最近、〇〇に関心がある子が増えてきたな
- ・〇〇について疑問をもっているみたいだな
- ・この時期だと〇〇するのはまだ早いかな

【学びのつながりと地域との関わり】

- ・前の単元では〇〇について学習したな
- ・近所の〇〇さんに協力してもらおう
- ・〇年生のとき見学した工場にお願いすれば、〇〇してもらえそうだな
- ・〇〇科の学習内容と関連させて指導できそうだな
- ・学校運営協議会で地域の課題を聞いてみよう



4 ふるさと草加学習実践事例・単元指導計画例

(1) 小学校 生活科実践事例

小学校1年生 草加お宝かるた

小単元名 むかしから つたわる あそびを たのしもう(3時間)

概要 地域の人とひとしよに草加お宝かるたで遊ぶ中で、昔から伝わる遊びのよさや楽しさ、地域の人への優しさ、身近な名所等に気付くことができるようにする。

目標【知識及び技能の基礎】 身近な地域にも、有名な人や特産品、名所があることに気付いている。
 【知識及び技能の基礎】 昔から伝わる遊びの楽しさや地域の人への優しさ、ひとしよに遊ぶ楽しさに気付いている。
 【学びに向かう力、人間性等】 地域の人に遊びを教わったりひとしよに遊びを楽しんだりしようとしている。

時数	学習活動	指導上の留意点
2	地域の人を招待したり、訪ねたりして、ひとしよに「草加お宝かるた」で遊び、地域のお宝について話を聞く。	●協力していただく地域の人に、活動のねらい(地域の人の優しさに気付く、地域のお宝に気付く)をしっかりと伝え、理解してもらう。 ●かるたの遊び方について、かるた付属の「草加お宝かるたの楽しみ方」等を参考に習熟しておく。
1	楽しかったことや気付いたことを振り返り、遊びを教えてくれた人にお礼の気持ちを伝える。	●草加のお宝について感じたことを交えながらお礼を伝えるよう、指導する。

小学校2年生 まち探検

単元名 もっと なかよし まちたんけん(12時間)

概要 地域の人々に関わる活動を通して、地域と自分たちの生活との関わりを考えたり、生活と地域との関わりなどに気付いたりして、生活上必要な習慣や技能を身に付けたり、地域の人々に親しみや愛着をもったりできるようにする。

目標【知識及び技能の基礎】 自分たちの生活は、地域の様々な人や場所と関わっていることや、地域の人々が地域に寄せる思いに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。
 【思考力、判断力、表現力等の基礎】 地域の人々に関わる活動を通して、地域の人々と自分たちの生活との関わりを考えている。
 【学びに向かう力、人間性等】 地域の人々に関わる活動を通して、地域の人々に親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活したりしようとしている。

時数	学習活動	指導上の留意点
2	たんけんの 計画を 立てよう	● 前回のまち探検や、草加お宝かるた、付属のお宝マップなどで地域への関心を高めておく。
3	もう いちど たんけんに行こう	● 絵地図を用意するなどして、新しく見つけたことや関わった人のことを記録し、交流ができるようにする。
2	見つけた ことを しょうかいしよう	● 発表を通して、次にしたいことをグループごとに相談し、もう一度探検に行く場所を決める。
3	まちの 人に 聞きに行こう	● 事前に地域の人に連絡を取り、「地域への思い」を話してもらうように依頼しておく。
2	分かった ことを 話し合おう	● まちについて分かったことを、写真や絵地図等を使いながら発表し合う。

学習テーマ④ 草加のまちづくり 小学校

【地域の防災・防犯について探究する学習の例】

単 元 名	安心・安全なまちづくり	時 数	10時間
単元の目標	・草加の安心・安全なまちづくりについて調べる活動を通して、自分が住む地域を守る人々の工夫や努力について理解し、学んだことを学校生活や家庭生活で生かそうとすることができるようにする。		
地 域、 児 童 生徒の実態	・興味・関心をもって、進んで調べることに意欲的である。 ・図書やインターネットを活用した学習への期待感が大きい。		
探 究 課 題 の 解決を通して 育成を目指す 具 体 的 な 資 質 ・ 能 力	1. 知識及び技能 ①調査活動を、目的や場面に 応じて適切に実施するこ とができる。 ②安心・安全なまちをつくる ための人々の工夫や努力 について理解する。 ③安心・安全なまちづくりに 対する認識の高まりは、自 身が探究的に学習してきたこと の成果であることに 気付く。	2. 思考力、判断力、表現力等 ①草加の安心・安全なまちづ くりに関して自身の関心 をもとに課題をつくり、解 決の見通しをもつことが できる。 ②課題の解決に必要な情報 を、適切な手段で収集し、 蓄積できる。 ③課題解決に向けて、観点に 合わせて情報を整理し考 えることができる。 ④調べたことを自分なりに 分かりやすく表現できる。	3. 学びに向かう力、人間性等 ①安心・安全なまちづくりに 関心をもち、自分自身を 見つめなおし、自分の意志 で探究的な学習に取り組 もうとする。 ②他者と協働して課題を解 決しようとする。 ③学んだことを学校生活や 家庭生活で生かそうとす る。
前 学 年 と の 関連について	・生活科の町探検で交通安全のための工夫について学習している。 ・第3学年では、社会科の学習で消防署見学を行った。		
教材について	・教科書（社会科） ・副読本「わたしたちの草加」 ・草加市防災マップボード（市内各小学校配布） ・草加市ハザードマップ（草加市役所危機管理課） p. 66 ・草加警察署ミニ広報誌（各交番発行） p. 66 ※埼玉県警察ホームページから各交番の広報誌が閲覧できます。		
地域の人材に ついて	・近隣の消防署員や警察官 ・市役所出前講座「水害対策について」（建設管理課） 「我ら、でこぼこ発見隊！」（維持補修課） p. 58		
地域の施設に ついて	・近隣の消防署や交番 ・排水機場（伝右川・古綾瀬川） ・谷塚調整池（辰井川） ・水位観測所（谷古宇橋付近） ※参考 令和4年度版社会科副読本「わたしたちの草加」 p. 130		
本単元以降の 発展学習例	・避難所生活を体験してみよう。 ・「〇〇小防災ビデオ」を作って全校に発信しよう。		

学習過程	時数	○学習活動 ・ 児童の思考	・ 指導上の留意点 ○評価（評価方法） ▲他教科等との関連 ★地域との連携
課題の設定	1	○社会科「わたしたちの草加」の学習を思い出し、安心・安全なまちづくりのための取組について発表する。 ・ 火事から守るために消防署があったね。 ・ 警察官の仕事について勉強したね。 ・ まちの中にも安心して暮らすための工夫があったね。 ・ 地震や洪水から守る活動についても学習したね。 ・ 学校でも避難訓練を行っているね。	・ まちには人々が安心・安全にくらすための工夫があることをおさえる。 ・ 社会科の学習と関連させながら児童の興味関心を高める。 ▲社会3年（みんなでつくろう 安全なまち） ▲社会4年（自然災害から人々を守る）
	2	○社会科での学習とも関連付けて学習課題を考える。 「安心・安全なまちづくり」 ・ 社会科で調べられなかったことを詳しく知りたいな。 ・ 学校の中の安全について調べよう。 ・ 草加市の警察官の苦労は何かな。 ・ スクールゾーンの役目について詳しく調べよう。	・ 社会科で学習したことだけにとらわれず自由な発想で課題を考えさせる。 ・ 児童から挙げた学習課題を参考に自分が興味関心をもったことを自分の課題として選択できるようにする。 ・ 児童の思いによって防災と防犯どちらかの視点に特化した活動とすることも想定される。 ○3-①（課題設定までの過程） ○2-①（設定した課題）
情報の収集	3 4	○決まった課題についての情報収集をグループで分担して行う。 ・ 図書室の本やインターネットで調べよう。 ・ 電話でインタビューもしてみたい。 ・ 教科書からもたくさん調べられそうだよ。 ・ 家族に話を聞いてみよう。 ・ クラスの友達からアンケートをとろう。	・ 収集したい情報に適した方法を選択できるよう、多様な手段を紹介する。 ○1-①（情報収集の方法・様子） ・ 実際に施設にインタビュー等を実施する場合、事前に教師が活動の趣旨を伝えておく。 ▲道徳（礼儀）
	5	○警察官をゲストティーチャーに招き、まちを守るための仕事について話を聞く。 ・ 特に苦労していることや願いは何かな。 ・ 自分で調べても分からなかったことを聞いてみよう。	○2-②（収集した情報の内容） ★近隣の警察官（草加警察） ★市役所出前講座「水害対策について」 「我ら、でこぼこ発見隊！」等
整理・分析	6 7	○収集した情報の報告会を行う。 ○課題について収集した情報を整理・分析する。 ・ 棒グラフで表してみよう。 ・ ランキングで紹介すると楽しそう。 ・ 3種類に分けて考えるとよさそうだね。 ・ 調べて分かったことをカードに整理してみよう。 ・ 地図でまちの工夫が分かる場所を表そう。 ○調べて分かったことをもとに自分の考えも整理する。 ・ みんなが安心・安全に暮らすために自分ができることは何かないかな。	○2-③（情報の分析） ○3-②（話し合い・情報の分析） ・ 話し合いの中で、児童が人々の工夫や努力に気付けるようにする。 ▲国語3年（仕事のくふう、みつけたよ） ▲算数3年（表と棒グラフ） ▲算数4年（表と折れ線グラフ） ・ 数値だけでなく、インタビューしたときの警察官の気持ちや表情からも、思いや願いも感じ取らせる。
まとめ・表現	8 9 10	○課題についての情報を整理・分析したことを新聞にまとめる。 ○「安心・安全なまちづくり」発表会をする。 ○発表会を終えて、今後の自分の行動について考える。 ・ 交通安全に気を付けて道路を歩こう。 ・ 小さい子が危ないことをしていたら教えてあげたい。 ・ まちを守ってくれている人にありがとうの気持ちを忘れないようにしよう。 ・ 家族と災害が起こった時のことを話したい。	・ 新聞には調べた事実だけでなく、これからの生活についても書かせる。 ▲国語4年（新聞を作ろう） ・ 発表会ではどんな考えも受容する態度で聞くように促す。 ▲道徳（相互理解 寛容） ○1-②（新聞・発表） ○2-④（新聞・発表） ○3-③（振り返りシート）

【地域への愛着心を視点にする学習の例】

単 元 名	気持ちよく生活できるまち		時 数	13時間
単元の目標	・気持ちよく生活できるまちづくりについて調べる活動を通して、自分が住む草加には気持ちよく生活するための工夫がたくさんあることに気づき、草加市のよさを伝えようとするができるようにする。			
地 域、 児 童 生徒の実態	・興味・関心をもって、進んで調べることに意欲的である。 ・学区内には公園、図書館などの公共施設が多くある。			
探 究 課 題 の 解決を通して 育成を目指す 具 体 的 な 資 質 ・ 能 力	1. 知識及び技能 ①気持ちよく生活できるまちをつくるための工夫について理解する。 ②調査活動を、目的や場面に応じて適切に実施することができる。 ③気持ちよく生活できるまちに対する認識の高まりは、自身が探究的に学習してきたことの成果であることに気付く。	2. 思考力、判断力、表現力等 ①気持ちよく生活できるまちづくりに関して自身の関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。 ②課題の解決に必要な情報を、適切な手段で収集し、蓄積できる。 ③課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えることができる。 ④調べたことを自分なりに分かりやすく表現できる。	3. 学びに向かう力、人間性等 ①気持ちよく生活できるまちづくりに関心を持ち、探究的な学習に取り組もうとする。 ②自分と違う意見や考えの良さを生かしながら協働して学び合おうとする。 ③学んだことを学校生活や家庭生活で生かそうとする。	
前 学 年 と の 関連について	・生活科の町探検で交通安全のための工夫を見つけたり、学区内の公共施設や施設の人々と触れ合ったりする学習をしている。			
教材について	・教科書（社会科） ・副読本「わたしたちの草加」 ・草加市みんなでまちづくり自治基本条例 副読本 Vol. 3 ※草加市市民活動センター発行 p. 66			
地域の人材について	・草加市みんなでまちづくり課 ・地域の町会自治会 p. 59 ・草加市社会福祉協議会 p. 65			
地域の施設について	・学区内の公園、通学路、商店街 ・公民館・文化センター ・中央図書館			
本単元以降の 発展学習例	・住みよいまちづくりのアイデアを草加市役所に提案してみよう。 ・〇〇公園クリーン大作戦を実施しよう。 ・町会・自治会の方と「よりよいまちづくり」をテーマに懇談会をしよう。			

学習過程	時数	○学習活動 ・ 児童の思考	・ 指導上の留意点 ○評価（評価方法） ★地域との連携 ▲他教科等との関連
課題の設定	1	○みんなが気持ちよくすごせるまちについて考える。 ・ ボールで思い切り遊べる公園があるといいね。 ・ 自然がいっぱいあるといいな。 ・ ごみがちらかっているまちだといやだな。 ・ おまつりやイベントがいっぱいあると嬉しいな。	・ 生活科の町探検と関連させながら、身近にある場所を考えさせる。 ▲社会 6 年（わたしたちの生活と政治） ▲家庭 6 年（共に生きる地域での生活）
	2 3	○気持ちよく生活できるまちの工夫を調べる学習課題 「気持ちよく生活できるまち」 を考える。 ○学習課題を設定するための情報収集をする。 ・ どんなまちになってほしいか家族に聞いてみよう。 ・ お年寄りや赤ちゃんがいる家庭はどうだろう。 ・ 市民の願いを市役所の人に聞いてみたい。	・ 様々な立場によって願いが変わってくることを意識させる。 ・ 自分の生活環境に沿って情報収集ができるよう多様な方法を考えさせる。 ○ 1－②（情報収集の方法・様子） ○ 3－①（情報収集の様子） ・ 実際にインタビュー等を実施する場合、事前に教師が活動の趣旨を伝えておく。
	4	○収集した情報を全体で共有した上で、探究する学習課題を決める。 ・ 公園がだれでも気持ちよく使える工夫を調べよう。 ・ 草加市ではみんなを楽しませるためにどんなイベントがあるのかな。 ・ お年寄りや障害がある人も不自由なく利用できる工夫を調べよう。 ・ みんなが草加市にあるとよいと思うものを調べよう。	・ 児童から挙げた学習課題を参考に自分が興味関心をもったことを自分の課題として選択できるようにする。 ○ 2－①（設定した課題）
	5 6	○決まった課題についての情報収集をグループで分担して行う。 ・ 公園を作った人にインタビューしたいな。 ・ 草加市のイベントはインターネットで調べられそう。 ・ 図書室にまちづくりの本があるかな。 ・ 教科書からもたくさん調べられそうだよ。 ・ 学年のみんなにアンケートをとってみたい。	・ 収集したい情報に適した方法を選択できるように、複数の手段を紹介する。 ○ 1－②（情報収集の方法・様子） ・ 実際にインタビュー等を実施する場合、事前に教師が活動の趣旨を伝えておく。 ▲道徳（礼儀）
情報の収集	7	○リモートで近隣の自治会とインタビュー等を行う。 ・ 草加をよいまちにするためにどんな工夫をしているのかな。	○ 2－②（収集した情報の内容） ★近隣の町会自治会
	8 9	○収集した情報の報告会を行う。 ○課題について収集した情報を整理・分析する。 ・ アンケート結果をランキングで紹介すると楽しそう。 ・ どんな人も利用しやすいように考えられているのかな。 ・ 新聞に大切なことが目立つように枠を分けよう。 ・ 発表原稿用意するといいかな。 ○調べて分かったことをもとに自分の考えも整理する。	○ 2－③（情報の分析） ○ 3－②（話し合い・情報の分析） ・ 話し合いの中で、児童が草加市の魅力に気付けるようにする。 ▲国語 3 年（仕事のくふう、みつけたよ） ▲国語 5 年（グラフや表を用いて書こう）
整理・分析	10 11	○課題についての情報を整理・分析したことを新聞にまとめる。	○ 2－④（新聞・発表） ・ 新聞には自分が考えたことや願いについても書かせる。
	12 13	○「気持ちよく生活できるまち」発表会をする。 ・ これまで以上にまちの施設を利用したくなった。 ・ まちの工夫についてたくさんのが分かった。 ○発表会を終えて、草加市をもっと住み良くするためのアイデアについて考える。 ・ お年寄りが気軽に参加できるイベントを考えたい。 ・ 松並木を生かしたお祭りができないかな。	▲国語 4 年（新聞を作ろう） ・ 発表会ではどんな考えも受容する態度で聞くように促す。 ▲道徳（相互理解 寛容） ○ 3－③（振り返りシート） ○ 1－③（振り返りシート）
まとめ・表現			

(3) 中学校 総合的な学習の時間単元指導計画例

学習テーマ① 草加の特産品 中学校

【1つのテーマについて深く探究する学習の例】

単 元 名	草加の伝統 ゆかた染め		時 数	1 4 時間
単元の目標	・ 地域の伝統産業「ゆかた染め」について調べる活動を通して、自分が住む地域で生まれ継承されてきた伝統産業のよさを再認識し、調べた内容や考えたことを相手に伝えるよう工夫して表現し、地域に対して自分ができることについて考えることができる。			
地 域、 児 童 の実態	・ 地域の伝統産業を守ることの大切さについて、意識をもち始めている。 ・ ゆかた染めに関する情報はあまりもち合わせていない状況である。			
探 究 課 題 の 解決を通して 育成を目指す 具 体 的 な 資 質 ・ 能 力	1. 知識及び技能	2. 思考力、判断力、表現力等	3. 学びに向かう力、人間性等	
	①「ゆかた染め」は、草加の伝統産業であることを理解する。 ②調査活動を、目的や対象に応じて適切に実施することができる。 ③伝統産業への興味関心の高まりは、自身の探究活動の成果であると気付く。	①「ゆかた染め」との関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。 ②課題の解決に必要な情報を、適切な手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積できる。 ③課題の解決に向けて、観点を合わせて情報を整理し考えることができる。 ④目的や対象に応じて、工夫して分かりやすく表現できる。	①「ゆかた染め」に関心を持ち、探究活動に進んで取り組もうとする。 ②自分と違う考えも受容しながら、他者と協働して課題を解決しようとする。 ③自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考えて積極的に関わろうとしている。	
前 学 年 と の 関連について	・ 小学校では、地域の教育資源を生かした体験活動を通して、地域の良さについて理解を深めてきている。			
教材について	・ 草加市の伝統産業について掲載されている書籍 ・ 草加市役所ホームページ内「草加を楽しむ」 p. 5 7			
地域の人材について	・ 草加市産業振興課 p. 6 6 ・ 埼玉県伝統工芸士			
地域の施設について	・ 伝統産業展示室「ぱりっせ」 p. 6 0			
本単元以降の 発展学習例	・ 草加のゆかた染めを生かした新商品を開発しよう。 ・ 後継者問題の解決について考えをまとめ、自分ができることを考えよう。 ・ ゆかた染めのよさを地域に発信しよう。			

学習過程	時数	○学習活動 ・ 生徒の思考	・ 指導上の留意点 ○評価（評価方法） ★地域との連携 ▲他教科等との関連
課題の設定	1	○これまでの学習を振り返り、草加の特産品について知っていることを発表する。 ・ 草加せんべいは全国で有名だね。 ・ 枝豆も盛んで小学校で育てたよ。 ・ 小松菜を使った給食の献立もありました。 ○草加市の代表的な伝統産業について知る。 （草加せんべい・ゆかた染め・皮革産業）	・ 草加の特産品の中でも草加せんべい・ゆかた染め・皮革産業は3大地場産業であることをおさえる。 ・ これまでの学習と関連させながら生徒の興味関心を高める。 ○1-①（発言、ノート）
	2 3	○本染めゆかた体験を通して学習課題を考える。 「草加の伝統 ゆかた染め」 ・ なぜ草加市の伝統産業になったのか調べたい。 ・ 後継者問題など職人さんが悩んでいることがないか調べてみたい。 ・ ゆかた染めが自分たちの生活とどのように関わっているだろうか。 ・ 発展させるためにどんな人が関わっているのだろう。	・ 社会科で学習したことだけにとらわれず自由な発想で課題を考えさせる。 ・ 生地比較、試着、染色体験、布地一反の体感等を体験させる。 ・ 生徒から挙げた学習課題を参考に自分が興味関心をもったことを自分の課題として選択できるようにする。 ○2-①（設定した課題）
情報の収集	4 5 6	○決まった課題についての情報収集をグループで分担して行う。 ・ ゆかた染め職人さんにインタビューしてみたい。 ・ 産業振興課の方の話も聞いてみたい。 ・ 図書室にゆかた染めの本があるかな。 ・ インターネットを使って調べてみよう。 ・ 学校の生徒にアンケートを取ることはできるかな。 ・ 市や町会が発行しているプリントを見てみよう。	・ 収集したい情報に適した方法を選択できるように、複数の手段を紹介する。 ○1-②（情報収集の方法・様子） ○2-②（収集した情報の内容） ・ 実際に職人等にインタビューを実施する場合、事前に教師が活動の趣旨を伝えておく。 ▲中1国語（情報を集めよう）
	7	○リモートでゆかた染め職人とつなぎ、製造工程や今後の課題について話を聞く。 ・ 職人さんがどんな思いをもっているか、私たち若者に伝えたいことはあるか聞いてみたい。	○2-②（収集した情報の内容） ★埼玉県伝統工芸士 ★草加市産業振興課
整理・分析	8 9 10	○収集した情報の報告会を行う。 ○課題について収集した情報を整理・分析する。 ・ 調べたことをパワーポイントにまとめてみよう。 ・ 伝統産業を未来に残していくための自分の考えもまとめよう。 ○調べて分かったことをもとに自分の考えも整理する。 ・ ○○な問題があることを伝えたい。 ・ 草加の伝統産業を発展させるために自分ができることは何だろうか。	○2-③（情報の分析） ○3-①（話し合い・情報の分析） ・ 話し合いの中で、生徒がゆかた染めの魅力に気付けるようにする。 ▲中1国語（情報を整理して書こう） ▲中2国語（多様な方法で情報を集めよう） ・ インタビューしたときの職人の表情等からも、思いや願いを感じ取らせる。
まとめ・表現	11 12 13 14	○課題についての情報を整理・分析したことをプレゼンテーションにまとめる。 ○「草加の伝統 ゆかた染め」発表会をする。 ○発表会を終えて、ゆかた染めをはじめ草加の特産品とどう関わっていきたいか考える。 ・ 草加の伝統産業を多くの人々に知ってもらうために、自分たちもできることを協力したい。 ・ 草加以外の人と関わる機会があったら、自慢したい。 ○作品を小学校にも届け、共有する。 ○可能であれば市のホームページ等に掲載できないか依頼する。	○1-③（作品・発表） ○2-④（作品・発表） ・ プレゼンテーションには調べた事実だけでなく、そこから自分が考えたことや願いについても書かせる。 ○3-②（作品・発表） ・ 発表会ではどんな考えも受容する態度で聞くように促す。 ▲道徳（相互理解 寛容） ○3-③（振り返りシート）

【地域の発展について探究する学習の例】

単 元 名	私たちの力で！草加の発展	時 数	13時間
単元の目標	・地域の伝統産業について調べる活動を通して、自分が住む地域で生まれ継承されてきた伝統産業のよさを再認識し、調べた内容や考えたことを相手に伝えるよう工夫して表現し、地域に対して自分ができることについて考えることができる。		
地 域、 児 童 生徒の実態	・地域の伝統産業を守ることの大切さについて、意識をもち始めている。 ・草加の特産品に関する既存の知識をあまり持ち合わせていない状況である。		
探 究 課 題 の 解決を通して 育成を目指す 具 体 的 な 資 質 ・ 能 力	1. 知識及び技能 ①「草加せんべい、ゆかた染め、皮革産業」は、草加の3大地場産業であることを理解する。 ②調査活動を、目的や対象に応じて適切に実施することができる。 ③伝統産業への興味関心の高まりは、自身の探究活動の成果であると気付く。	2. 思考力、判断力、表現力等 ①草加の地場産業との関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。 ②課題の解決に必要な情報を、適切な手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積できる。 ③課題の解決に向けて、観点を合わせて情報を整理し考えることができる。 ④目的や対象に応じて、工夫して分かりやすく表現できる。	3. 学びに向かう力、人間性等 ①草加の伝統産業の発展について関心をもち、探究活動に進んで取り組もうとする。 ②自分と違う考えも受容しながら、他者と協働して課題を解決しようとする。 ③自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考えて積極的に関わろうとしている。
前 学 年 と の 関連について	・小学校では、地域の教育資源を生かした体験活動を通して、地域の良さについて理解を深めてきている。		
教材について	・草加市の伝統産業について掲載されている書籍 ・草加市ホームページ内「草加を楽しむ」 p.57 ・草加市伝統産業PRサイト		
地域の人材について	・学区内の特産品に関わるお店等の方 ・草加市産業振興課 p.66		
地域の施設について	・伝統産業展示室「ぱりっせ」 p.60 ・草加せんべい振興協議会 p.61 ・そうか革職人会 p.62 ・渡辺教具製作所（地球儀） p.63		
本単元以降の 発展学習例	・伝統産業の継承の意義についてまとめ、将来の自分とのつながりを考えよう。 ・シンポジウムを企画し、地域の方を招待しよう。 ・草加の特産品を使った商品を開発して、販売しよう。		

学習過程	時数	○学習活動 ・ 生徒の思考	・ 指導上の留意点 ○評価（評価方法） ▲他教科等との関連 ★地域との連携
課題の設定	1	○これまでの学習を振り返り、草加の特産品について知っていることを発表する。 ・ 草加せんべいは全国で有名です。 ・ 枝豆も盛んで学校で育てた。 ・ 小松菜を使った給食の献立もあった。 ○草加市の代表的な伝統産業について知る。 （草加せんべい・ゆかた染め・皮革産業）	・ 草加の特産品の中でも草加せんべい・ゆかた染め・皮革産業は3大地場産業であることをおさえる。 ・ これまでの学習と関連させながら生徒の興味関心を高める。 ○1-①（発言、ノート）
	2	○学習課題を考える 「私たちの力で！草加の発展」 ・ 草加の特産品の魅力について多くの人に知ってもらいたい。 ・ たくさんの人に知ってもらうにはどうしたらいいだろう。 ・ 自分の身近にどんな特産品があるのか調べたい。	・ 社会科で学習したことだけにとらわれず自由な発想で課題を考えさせる。 ・ 生徒から挙げた学習課題を参考に自分が興味関心をもったことを自分の課題として選択できるようにする。 ○2-①（設定した課題）
情報の収集	3 4 5	○決まった課題についての情報収集をグループで分担して行う。 ・ 近くの工場やお店に行きインタビューしたい。 ・ 電話でインタビューもしてみたい。 ・ 図書室に草加の産業の本があるかな。 ・ 産業振興課の方の話も聞いてみたい。 ・ インターネットを使って調べてみよう。 ○電話やリモートで近隣のお店とつなぎ、インタビュー等を行う。 ・ 特産品をアピールするためにお店の人たちが考えていることは何かな。	・ 収集したい情報に適した方法を選択できるように、複数の手段を紹介する。 ○1-②（情報収集の方法・様子） ・ 実際にお店にインタビュー等を実施する場合、事前に教師がお店に活動の趣旨を伝えておく。 ▲道徳（礼儀） ○2-②（収集した情報の内容） ★近隣のお店 ★伝統産業展示室「ぱりっせ」 ○3-①（情報収集の様子）
	6 7	○課題について収集した情報を整理・分析する。 ・ ○○な場面に活用されていることが分かった。 ・ 伝統産業を未来に残していくための自分の考えもまとめておこう。 ○調べて分かったことをもとに自分の考えも整理する。 ・ 問題点があることをみんなにも知ってもらいたい。 ・ 草加の伝統産業の発展のために自分たちができることはなんだろう。 ・ 伝える相手によって内容を考えていこう。 ・ 職員の方に感謝の気持ちを伝えたいな。	○2-③（情報の分析） ○3-②（話し合い・情報の分析） ・ 話し合いの中で、生徒が草加の特産品の魅力に気付けるようにする。 ▲中1国語（情報を整理して書こう） ▲中2国語（多様な方法で情報を集めよう） ・ 数値だけでなく、インタビューしたときの職員の表情等からも、職員の思いや願いも感じ取らせる。
まとめ・表現	8 9 10 11 12 13	○課題についての情報を整理・分析したことをもとに伝えたい方法を選択してまとめる。 ○「私たちの力で！草加の発展」発表会をする。 ○発表会を終えて、草加の特産品とどう関わっていきたいか考える。 ・ 草加の伝統産業を多くの人に知ってもらうために、自分たちもできることを協力したい。 ・ 地域の方ともしっかり話し合ってみよう。 ○作品を小学校にも届け、共有する。 ○草加市ホームページに生徒作品が掲載できないか、産業振興課に依頼する。 ○可能であれば、関係施設・団体への発表や提案、社会活動への参画を行う。	○2-④（作品・発表） ・ パンフレット、新聞、模造紙、CM、新商品開発などの方法が想定される。 ○1-③（作品・発表） ・ まとめには調べた事実だけでなく、そこから草加の発展のために自分ができることや願いについても書かせる。 ・ 発表会ではどんな考えも受容する態度で聞くように促す。 ▲道徳（相互理解 寛容） ○3-③（振り返りシート）

5 草加市の教育資源

(1) 草加の三大地場産業

草加市では、『せんべい』『ゆかた染め』『皮革』が三大地場産業とされています。

せんべいは“草加せんべい”という名称で親しまれ、全国的に有名となっています。

ゆかた染めは注染という技法で染めており、現在は1社が受注生産を行っています。

皮革は多くの革の種類を取り扱い、革の染色から製品加工に至るまでを一貫して地域で行っています。

ここでは、授業等で話題にする際の基礎資料となるよう、各産業の概要を紹介します。

① 草加せんべい

草加せんべいは、全国に知られる和菓子の一大ブランドです。そのルーツについては様々な説がありますが、最も親しまれているのは「おせんさん」のエピソードです。

昔、日光街道は草加松原の茶店で、おせんさんという女性が団子を売っていました。おせんさんは売れ残った団子の処分に困っていましたが、ある日、侍が「団子を捨てるのはもったいない。つぶして乾かし、焼き餅として売ってはどうか」とアドバイスしたそうです。おせんさんが焼くこの餅は評判を呼び、街道の名物となりました。



草加周辺では昔から、せんべいが手軽な携帯食として親しまれていました。それはこの地が良質な米と水、野田産の醤油など、せんべいの原料に恵まれていたからです。そして、当時盛んだった舟運によって江戸に運ばれた草加せんべいは、人々の間で大変な評判となり、たちまち人気となりました。

現在、市内にあるせんべいの製造所や販売所は40軒以上に及び、名実ともに草加市を代表する名物となっています。製造工程は機械化されつつありますが、昔ながらの天日干しや手焼きも行われています。

② ゆかた染め



ゆかたとは「湯帷子(ゆかたびら)」の略で、もともとは入浴の際に着る着物のことです。江戸時代中期以降、風呂に裸で入るようになってからは入浴の前後に着る単衣の着物として、さらには暑い夏を快適に過ごすための衣類として、日本人に親しまれ続けてきました。

草加のゆかたは、県の伝統的手工芸品にも指定されている、市を代表する伝統産品の一つです。江戸時代の後期、江戸神田の染織業者が大火により焼き出され、水の豊富な当時の草加に移住し事業を再開したのが始まりと伝えられています。生産したゆかたは、大消費地である江戸へ出荷されました。また、ゆかたの生産は、草加の人々に農閑期の余業として受け入れられました。

江戸時代から明治、大正へと時代が変わり、ゆかたの製作方法にも変化が現れました。従来の長板中形(ながいたちゅうがた)から、注染(ちゅうせん)という新しい技術が大阪で生まれたのです。

長板中形は、型付屋で 6.5 メートル程の長い板へ生地を張って、糊で型付け、さらに裏面も同様に行い、紺屋で染料の入った瓶に浸して染め上げる手法のため、生産性が低く、広い作業スペースも必要でした。

一方、注染は 1 メートル弱の間隔で生地を折り返し、何度も糊付けを繰り返すので能率が良く、染料を注いで染め上げるため、裏表なく柄が鮮やかで、生産性が高いことが特長でした。

注染の技術はいち早く受け入れられ、草加市でのゆかたの生産量は増加しました。第二次大戦に伴う繊維関連の価格・設備統制により、生産にかげりが見えましたが、1949(昭和 24)年から 1951(昭和 26)年にかけて統制は解除され、ゆかたの生産量は飛躍的に増大しました。そして、高度成長期を迎える 1961(昭和 36)年には 300 万枚を出荷し、最盛期を迎えることとなりました。その後は、和服着用機会の減少、安価なプリントゆかたの増加などに押され、ゆかた生産は減少の一途をたどりました。

現在は、日本橋横山町の繊維問屋筋からの委託加工が盛んで、店頭に並ぶ「東京本染ゆかた」の大部分は草加周辺で作られています。また、草加市地場産業振興協議会では、草加の伝統的地場産業であるゆかた染めを広く知ってもらい、活気を取り戻そうと「浴衣の着付け・レンタル」や「母の日ふきん染め体験」などの催しを行い、PR を図っています。



③ 皮革産業

草加の皮革の歴史は、皮革が製造工程で大量の水を使用するため、地下水が豊富であった草加に、1935(昭和 10)年に皮革会社が工場を開設して以来、東京の三河島方面から続々とまとまって移転・進出したことに始まります。

第二次大戦下においては、統制品の指定を受け、操業は著しく下降しましたが、1950(昭和 25)年の統制解除後は、原皮の輸入の増加に伴い活況を取り戻し、羊皮をはじめとする染色工場も増加しました。現在では草加は素材から最終製品まで幅広く生産する、全国有数の産地となっています。



草加の皮革産業の特徴は、牛、豚、羊のほか爬虫類や鮫など、様々な素材を使用している点にあります。製品も、靴、かばん、衣料品、ランドセル、運動具など多様で、魅力的な商品が生み出されています。

2002(平成 14)年には、市内の皮革産業に携わる職人や企業が集まり「そうか革職人会」が設立され、レザーフェスタなどのイベントを通じて草加の皮革製品の普及と PR に努めています。また、草加市文化会館内の伝統産業展示室「ぱりっせ」でも、これらの皮革製品を常設展示、販売しています。

(出典)草加市産業振興課サイト(各産業の製造工程も紹介しています。)

<http://www.city.soka.saitama.jp/li/040/050/index.html>

(3) 草加市に関するデータ集

パリポリドリル

(別冊)もご覧ください。

シンボル・データ

市章	「艸力」の文字を図案化。 3個の円は谷塚町・草加町・新田村の合併。これをつなぐ3線は、 川柳・安行・八条地域の編入を意味しています。	
市の木	マツ	市の花 キク
市の人口	25万1008人(令和4年12月1日現在)	市の面積 27.46km ²



草加市歌

思い出はいつも

1 朝露をふるわせる
緑の風を追いかけて
夢の国へとたどり着けた
あの頃よ
聞こえてたあの詩は
明日の空を越えてきた
幼ごころに届けられた
小さな調べ
思い出はいつも
このまちとともにある
生れ育った
このまち草加と

2 陽だまりにみつけた
可憐な花の彩りが
若い瞳にまぶしすぎた
あの頃よ
愛しさに切なさに
誰かの胸に橋をかけ
初めて独り向こう岸へ
こころの旅を
思い出はいつも
このまちとともにある
生れ育った
このまち草加と

作詞: 中村八大・西村達郎 作・編曲: 中村八大

3 夕映えにきらめいて
変わらぬ姿綾瀬川
過去と未来を永久に繋ぐ
遙かさよ
草加人それぞれの
喜びそして悲しみを
時の彼方へ運んでゆく
大きな流れ
思い出はいつも
このまちとともにある
生れ育った
このまち草加と

【歌を聞けます】



国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」

国指定名勝

草加松原は、松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅で
草加を訪れたところの風致景観を今に伝えていること
が認められ、芭蕉がたずねた他の場所と一緒に、
平成26年(2014)に国の名勝に指定されました。

おくのほそ道と草加松原

元禄2年(1689)3月27日(今の暦で5月16日)、松尾芭蕉は、江戸から『おくのほそ道』の旅に
出発しました。そのときのことを芭蕉は、「もし生きて
帰らばと、定めなき頼みの末をかけ、その日やう
やう草加という宿にたどり着きにけり。」と記してい
ます。

草加松原のマツ

草加松原のマツは、日差し
や強風から旅人を守るため、
江戸時代に植えられたと伝わ
っています。「草加の千本松
原」などと呼ばれ、広く知られ
るようになりました。

道路の整備や排気ガスにより、昭和40年代に
は、著しく本数を減らしましたが、多くの市民の活
動により、現在では、東京スカイツリーの高さにな
んだ634本になっています。



松尾芭蕉

おくのほそ道 冒頭

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。
舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老いを
迎ふる者は、日々旅にして、旅を栖とす。古人も多く
旅に死せるあり。

冒頭の英訳 訳: ドナルド・キーン氏

The months and days are the travellers of
eternity. The years that come and go are
also voyagers. Those who float away their
lives on ships or who grow old leading
horses are forever journeying, and their
homes are wherever their travels take
them. Many of the men of old died on the
road,...

教科書に掲載された俳句

- 古池や 蛙飛びこむ 水の音
- 閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声
- 名月や 池をめぐりて 夜もすがら
- 五月雨を あつめて早し 最上川
- 夏草や 兵どもが 夢の跡

- 五月雨の 降り残してや 光堂
- 野を横に 馬牽むけよ ほととぎす
- 荒海や 佐渡によこたふ 天河
- むぎむやな 甲の下の きりぎりす
- 蛤の ふたみにわかれ 行く秋ぞ

